ゴーンぎつね

4 人/30 分/10 歳以上

ゴーンは、いたずら好きのきつね。兵十のために拾ったくりを、 こっそりかくして少なく見せる。司法取引を駆使してくりの行方を 追う検察官。さあ、きょうも、東京地検との化かし合いがはじまる。

このゲームは4人のペア戦で遊ぶカードゲームです。「くり」のカードを1枚ずつ出して、できるだけ多くのくりを集めることを目指します。しかし、くりを少なく見せかけたのがばれると銃で撃たれて負けてしまうかもしれません。ペア同士でうまく情報を交換し、相手をだましてみせましょう。

内容物

数字カード 28 枚 $(1\sim12$ 各 2 枚、X 4 枚) ゴーンカード、CEO カード 各 1 枚 説明書 1 枚

準備

ペアを適当な方法で決め、ペアの 2 人が向かい合って(両隣に相手ペアがくるように)座ります。

最近、金融商品取引法違反で逮捕された人が親になり、数字カード28枚をよく混ぜてウラ向きに各プレイヤーに7枚ずつ手札として配りきります。手札は他のプレイヤーに見せず、手札の内容を話してもいけません。

「ゴーンカード」「CEO カード」の 2 枚は、通常のゲームでは使いません。

カードの交換

プレイの前に、ペア同士でカードを交換します。

親はまず、向かいの相手に手札から2枚のカードを渡します。渡されたプレイヤーはその内容を見て、親に手札から2枚のカードを渡します。親に渡されたカードを返してもかまいません。

次に、親の左隣のプレイヤーも同じように 2 枚をペアの相手に渡 し、相手から 2 枚を受け取ります。

プレイ

このゲームでは、各プレイヤーが順番に 1 枚ずつカードを一巡出します。お互いのペアが腹の探り合いをするので、この一巡のことを以下「トリック」と呼びます。手札は 7 枚ずつあるので、全部で7トリックをプレイします。

各トリックでは、カードを最初に出すプレイヤーを「ゴーン」、その向かいの(同じペアの)プレイヤーを「兵十(ひょうじゅう)」、対するペアの2人を「検察官」とそれぞれ呼びます。最初は親の左隣のプレイヤーがゴーンになります。

トリックの最初は、ゴーンが好きなカードを1枚、手札からウラ向きに打ち出します。それからこのカードの数字を申告します。このときウソをついて、実際の半分の数字を申告してもかまいません。奇数は端数を切り捨てます。たとえばカードが4であれば4か2を申告でき、カードが9であれば9か4を申告できます。

1よりも低い数字や実際よりも高い数字を申告することはできず、また諸事情により 10 以上の数字を申告することもできません。したがって、 $10\sim12$ を出すときは必ずウソをつかなくてはなりません。

以降のプレイヤーは時計回りにカードを、オモテ向きまたはウラ 向きに 1 枚出していきます。ゴーン以外のプレイヤーはウラ向きに 出しても数字を申告する必要はなく、どのカードを出してもかまいません。ここでオモテ向きに出されたカードは「銃」カードになり、ウラ向きに出されたカードは「くり」カードになります(したがって、ゴーンが出すのは必ず「くり」カードです)。

全員が1枚ずつ出したら、カードの強さを判定します。まず、ウラ向きの「くり」カードをすべてオモテにします。

ゴーンの申告した数字がカードどおりなら、「くり」カードの中で 一番大きい数字を出した人がこのトリックに勝ちます。「銃」カード は数字の大きさにかかわらず負けてしまいます。

申告がカードよりも低ければ(ウソであれば)、「銃」カードの中で一番大きい数字を出した人がこのトリックに勝ちます。「くり」カードは数字の大きさにかかわらず負けてしまいます。申告がウソでも全員が「くり」だった場合は、数字の一番大きい人がトリックに勝ちます。

ただし、ゴーンが本当の数字を申告したのに兵十が「銃」カードを出した場合、このトリックのゴーンと兵十は必ずこのトリックに負けます。検察官の2人で「くり」の数字の大きい方が、なければ「銃」の数字の大きい方が、トリックに勝ちます。

どの場合も、同じ数字で一番強いカードが2枚以上あれば、後から出したほうが勝ちます。

トリックに勝ったプレイヤーは、場に出されたカードをすべて受け取り、ウラ向きにして手元に集めます。このプレイヤーが新たなゴーンとなって、次のトリックを始めます。

「X」カード

「X」のカードは、「くり」カードとして出された場合は「くり」の中でもっとも強くなりますが、「銃」カードとして出された場合は「銃」の中でもっとも弱くなります。またゴーンがこれを出すときは $1\sim9$ のどの数字でも申告することができますが、いずれもウソとして扱います。

終わりと得点

全員が手札を使い切ったら、ゲームは終わりです。ペア同士で集めたカードを合計し、カードに描かれたくりの数(数字ではありません)を数えます。くりの数がより多いペアの勝利です。

何度か続けてゲームする場合、くりの数を得点としてメモし、親が時計回りに一巡するまで勝負するといいでしょう。

∥選択ルール:内部告発

このルールでは「ゴーンカード」「CEO カード」を数字カード 28 枚に混ぜ、30 枚のカードを使います。親はすべてのカードをよく混ぜて各プレイヤーに 7 枚ずつ配り、残った 2 枚は見ずに伏せ、最後のトリックの勝者が獲得します。

ゴーンカードを持っているプレイヤーは、ゴーンカードを全員に公開して最初のゴーンになります。このときゴーンカードを誰も持っていなければ、カードをすべて集めて親を変えずに配り直します。ペアは向かいではなく、ゴーンカードと CEO カードを持っている

人が一方のペアに、それ以外の2人がもう一方のペアになります。 ただし、CEOカードを持っている人は、それを話してはいけません。 最初はペアがわからないため、カード交換はありません。

ゴーンカードの数字は13、CEOカードの数字はXです。 兵十がゴーンの向かいであることは変わりません。したがって、 ゴーンと兵十が別のペアのプレイヤーであることもあります。

> GOSNE IS GONE ©2018 Tarte Games Game Design: Kazuma Suzuki

※このルールはゲームマーケット公式サイト用のサンプルです。内容は予告なく変更する可能性があります。